

3月20日に開かれた市議会本会議で、湯之下明宏企画部長を副市長に、沖畑康子教育研究所次長を教育長に、平澤千人さんを教育委員に、それぞれ選任することに同意が得られました。



教育委員 平澤 千人
(ひらさわ ちひと)

4月1日に就任した平澤教育委員は、市民児童課長、宮川振興事務所長などを歴任され、「責任の重さに身の引き締まる思いです。飛騨市の未来を担う子供たちのために微力ですが勤めさせていただきます」と抱負を語りました。



教育長 沖畑 康子
(おきはた やすこ)

4月1日に就任した沖畑教育長は、神岡中学校長、市教育研究所次長などを歴任され、「市民の皆様の学びが充実することを目指し、ふるさとと未来をつなぎ確かな力を育む学校教育の推進、スポーツや文化・芸術の振興と魅力的な学びの創造に力を尽くす決意です」と抱負を語りました。



副市長 湯之下 明宏
(ゆのした あきひろ)

4月1日に就任した湯之下副市長は、環境水道部長、市企画部長などを歴任され、「日本の総人口が減少するという、かつてない局面において、市政充実のため市役所一丸となり取り組めるよう一生懸命務めたい」と抱負を語りました。

高 議会や市政を身近に感じる 高校生が議会の一般質問を傍聴しました

3月7日（水） 議場

飛騨神岡高校の生徒が飛騨市議会の一般質問を傍聴しました。

この日、2人は初めての議会や議場の雰囲気に緊張していましたが、質問や答弁の内容をメモするなどしながら、真剣に議事を傍聴しました。

岩垣さんは「幅広くしっかりと考え、何十年先のことも考えて議論が行われていました。こうした議論が行われているので、飛騨市や地元の神岡町も良くなっていくと思います。また傍聴に行きたいです」と話していました。

次の日も、生徒による議会傍聴や議場の見学などが行われました。



真剣に傍聴する生徒

北 平成31年の本格観測を目指す 部会館の改修工事が完了しました

3月2日（金） 北部会館

東京大学宇宙線研究所は、神岡町茂住の北部会館で同館の改修工事完成記念内覧会を開き、東京大学宇宙線研究所関係者、地元関係者ら約50人が参加しました。

内覧会で、同研究所所長の梶田隆章先生は「北部会館の利用に地域の皆様のご理解をいただき完成することができました。平成31年の本格観測を目指し、神岡の地から皆さんに新しい発見やうれしい報告ができるよう努めます」とあいさつしました。

その後、東京大学宇宙線研究所重力波観測研究施設長の太橋正健先生から改修工事の概要や大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」の現況説明が行われました。



梶田先生や地域住民との記念写真

第1号の入校生を激励しました

3月14日（水） 市長室

4月からサンビレッジ国際医療福祉学校に入校を予定している吉城高校3年生の見田佑斗さんの激励が市長室で行われました。

これは、昨年7月に締結した同校と地域若手介護人材育成連携協定のひとつで、市からは進学決定時に入学準備金として奨励金が贈られます。

都竹市長は「介護をする方は足りないので、ぜひがんばって地元に戻ってきて活躍してください」と激励しました。見田くんは「サンビレッジ人材育成制度の第1号として恥じないように、地元で活躍できるよう頑張ってきたい」と話してくれました。



見田さん（左）と都竹市長

飛 飛越交流美術展が10周年 飛 驒市伝承作物認定発表会が行われました

3月9日（金） 市役所

飛驒市伝承作物認定発表会が行われ、「白たまご（神岡町）」「種蔵紅かぶ（宮川町）」「白坂かぶら（河合町）」「船津かぶら（神岡町）」の4品目が伝承作物として初めて認定されました。

この制度は、市内で古くから栽培されている作物を「飛驒市伝承作物」として認定し、地域の特色ある作物の風味や歴史などを伝え、情報発信をしながら、地産地消や地域振興につなげようと平成29年度からスタートしました。

発表会では、栽培者に認定証が市長から手渡されたほか、伝承作物を使った料理の試食会も行われました。



認定された伝承作物や認定証を持つ委員の皆さん

安 利用促進や市民の健康増進につなげる 安 望藤園を寄付していただきました

3月16日（金） 市役所

飛驒信用組合から飛驒市へ、古川町上気多の安望藤園を寄贈していただきました。

寄付していただく物件は藤園一式（土地等を含む）です。古くから市民の皆さんに親しまれてきた民間の藤園は、平成26年度の豪雪で甚大な被害を受けました。その後、同組合が取得し、修復・整備が図られ、見事に復活していただきました。

セレモニーでは大原誠理事長から都竹市長へ目録が手渡された後、大原理事長へ感謝状を贈呈しました。

都竹市長は「皆さんに喜んでいただけるよう、長く活用していきたい」とお礼を述べました。



感謝状を手にする大原理事長（左）と都竹市長

誰 ワーキングウーマンミーティング2018 もが豊かに生活できる町づくりを目指す

3月13日（火） 飛驒市図書館

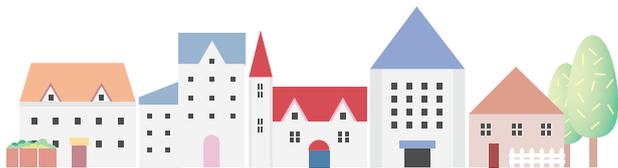
飛驒市図書館で「ワーキングウーマンミーティング2018」が行われ、市内の女性14人が参加しました。

市では「第2次飛驒市男女共同参画基本計画」を策定し、男女がともに働きやすく、豊かな生活を送ることができる町づくりを目指し、様々な事業を行っています。

今回は、働いている女性や子育て中のお母さんを対象に、NPO法人あゆみだした女性と子どもの会の廣瀬直美理事長を講師に招き、アンガー（イライラ、怒りの感情）をマネジメント（上手に付き合う）するための方法などを学びました。また、怒りの自己分析を行いグラフを作るなどのワークショップも行われました。



託児も行われた講演の様子



神 新たに渓谷コースがオープン 岡町の自然を満喫しよう

3月24日（土） 神岡町

NPO法人神岡・町づくりネットワークは、4月21日に新たにオープンするレールマウンテンバイク「ガタンゴロー」の【渓谷コース】の試乗会を行いました。

この渓谷コースは、神岡町西漆山にある旧神岡鉄道の漆山駅を発着点に、同町ニツ屋までの折り返し地点までの片道3.3kmを往復するコースです。

この日は、地元住民や関係者ら約90人が参加し、神岡の山並みや、自然豊かな高原川や高さ15mの鉄橋、トンネルなど、ガタンゴローと渓谷コースを満喫しました。

渓谷コースは4月21日オープンで、ホームページから予約することができます。



鉄橋を通過する住民ら

地 企業版ふるさと納税2例目 地域振興を皆さんとともに

3月20日（火） 市役所

OKB大垣共立銀行は地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用し、飛騨市へ寄付をいただきました。

寄付していただく金額は2,000万円で、これは市が進めている飛騨神岡宇宙最先端科学パーク構想加速化拠点整備事業（ひだ宇宙科学館 カミオカラボ整備事業）の財源に充てられます。

この日は、市役所で目録授与ならびに感謝状贈呈式が行われ、同行の加藤芳之専務取締役や都竹市長などが参加しました。

都竹市長は「いただいた寄付を大切に活用し、飛騨市や県の発展でお返ししたい」と感謝を伝えました。



会場にはパディントンベアも駆けつけました

東 ふるさと納税を活用し東大へ寄付 大若手支援基金へ全国初の寄付

3月30日（金） 神岡町 神岡宇宙素粒子研究施設

市と東京大学宇宙線研究所との連携協力協定の一環として、宇宙線研究所若手支援基金への寄付金の贈呈式が東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設で行われました。

昨年8月より東大との連携事業を目的としたふるさと納税を募っており寄付された一部（1,860万円）を同基金へ寄付しました。ふるさと納税を活用した寄付を国立大学法人に行うのは、全国初の取り組みです。

贈呈式には同研究所の梶田隆章所長や都竹市長など、約30人が出席しました。



目録を手にする梶田隆章所長（右）と都竹市長

ひ 広葉樹を活用した新事業スタート だ木ふと製品発表会

3月22日（木） Fabcafe hida

飛騨の木工職人が飛騨市内の広葉樹を活用したブライダルアイテムの製品発表会を古川町式之町のFabCafe Hidaで開催しました。

これは、市が推進する広葉樹のまちづくりの新たな一歩として、飛騨市の広葉樹を活用した新製品開発プロジェクト「ひだ木ふと」の初めての製品発表会です。

発表会では、プロジェクトの概要説明や木工製品の発表や蝋燭作家のチエミサラさんとコラボした木工製品の展示、模擬結婚式などが行われ、会場内は幻想的な雰囲気に包まれました。



ひだ木ふとを活用した模擬結婚式の様子